

令和4年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果(R5.7.28外部組織による検証)

No.	交付金種別	対象事業名	交付金を活用して実施した詳細事業	事業の効果に対するコメント	事業見直しの必要性	実績に対するコメント	数値目標に対するコメント	今後の事業実施について
1	地方創生推進交付金	GIAHS × SDGs × Art で過疎地を持続可能 化プロジェクト	<p>■芸術祭を活かした関係人口拡大事業 事業費:15,000千円 概要:「一般社団法人サポートスズ」を中心に、芸術祭サポーターの拡大と継続的な事業展開により、芸術祭のサポート基盤の確立とともに、関係人口の拡大につなげるもの。 実施主体:奥能登国際芸術祭実行委員会 支出方法:負担</p>	<p>・芸術祭を通じた移住や経済効果について見える化すべき。</p> <p>・芸術祭に係る交流人口、移住人口、経済等波及効果について今後とも期待したい。</p> <p>・行った事業は理解できたが、実施主体において期待した効果が得られたのか否か、実施主体の意見をまず審議会に伝えることによって、審議は具体化しやすいと考える。</p>	不要	<p>・移住者数は絶対数ではなく、世代別割合など諸事業によるインパクトが見えやすいと良い。</p> <p>・達成状況と実施主体の意見は付されていた方が検証しやすい。</p>	特段なし	継続実施する
2			<p>■芸術祭推進による常設作品拡大事業 事業費:5,000千円 概要:奥能登国際芸術祭2023開催に向けた各種企画立案、アーティストの選定、広報戦略等の総合ディレクション業務等を実施。 実施主体:奥能登国際芸術祭実行委員会 支出方法:負担</p>					
3			<p>■地域活性化プログラム検討業務 事業費:3,740千円 概要:奥能登国際芸術祭による情報発信効果、関係人口拡大効果を活かし、観光地及び地域産業の振興につながる「食文化の推進」、「保存作品の活用」、「移住定住の促進」、「DX化」を進め、持続的な地域活性化の方策を検討した。 実施主体:珠洲市 支出方法:委託</p>					
4			<p>■すず里山里海移住フロント事業 事業費:3,000千円 概要:ワンストップの移住相談窓口。就業や住まいに関する多角的な相談・支援を行うとともに、すぐに住める賃貸住宅の確保を行うなど総合的な移住・定住施策を実施。 実施主体:飯高応援団 支出方法:補助金</p>					

令和4年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果(R5.7.28外部組織による検証)

No.	交付金種別	対象事業名	交付金を活用して実施した詳細事業	事業の効果に対するコメント	事業見直しの必要性	実績に対するコメント	数値目標に対するコメント	今後の事業実施について	その他コメント
1	地方創生推進交付金	能登半島の先端にレジリエントな「知」と「共創」のSDGsプラットフォームづくり	<p>■能登里山里海マイスター育成プログラム 事業費:20,000千円 概要:金沢大学と共同で実施する「能登里山里海マイスター育成プログラム」を更に深化させ、本市が推進するSDGsの理念を取り入れ、豊かな地域資源の土壌である環境の保全、その他地域資源を活かしたソーシャルビジネス等の展開に伴う地域経済の発展、多様なネットワークでつながりを生み出す社会的包摂性の3つの観点も人材養成教育プログラムに盛り込み、経済・社会・環境の三側面を補完するトータル的な人材養成事業を実施。 実施主体:金沢大学 支出方法:負担</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内外への情報発信の強化(SNS投稿頻度を上げるだけでも)。</li> <li>・能登SDGsラボを活用した様々な施策の効果に今後とも期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登SDGsラボの事務局体制の強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対の推移のみでは評価しづらい。比率、比較、達成率、原因分析、主体者の意見が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標に加えて、定量的なモデルケースをコラム的に掲載すると、よりイメージが湧きやすいと考える。</li> </ul>	特段なし	特段なし
2			<p>■能登SDGsラボの設立運営 事業費:10,000千円 概要:市内の現場サイドに存在する地域課題を解決するためのワンストップ窓口として、地域課題解決のコーディネーション機能と「知」と「共創」のプラットフォーム機能を備えた「能登SDGsラボ」を金沢大学能登学舎内に設置し、プラチチとして位置付けられた連携するステークホルダーと共同で運営。 実施主体:能登SDGsラボ運営委員会 支出方法:負担</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行った事業は理解できたが、実施主体において期待した効果が得られたのか否か、実施主体の意見をまず審議会に伝えることによって、審議は具体化しやすいと考える。</li> <li>・新規事業の掘り起こしは各関係事業の相乗効果が現れる形になると良いと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在不在となっている運営体制をコントロールできる強力なコーディネーターの設置。</li> </ul>				